



学校だより

7月号①



浦添市立前田小学校
令和7年7月1日
校長 平良 その子

早いもので、一学期も残り14日となりました。

子供達は、元気に、日々、様々な活動に取り組んでいます。先月は、大きな行事である5年生の自然体験学習と平和旬間がありました。一つ一つの活動を通して、様々なことに気付いたり、考えたりすることで成長していく子供達。体験後の満足した表情や笑顔から、学びを通して充実した日々を過ごしていることが窺えます。

自然体験学習（集団宿泊学習）



6月12日～13日、「自然に親しみ、集団生活でのきまりや公衆道徳などについて学んだり、よりよい人間関係を築いたりする」ことを目的に、5年生の自然体験学習を行いました。

子供達は、玉城青少年の家で、野外炊飯や、キャンドルファイヤー、アドベンチャーウォークなどを通して、一つのことを成し遂げる喜びや達成感、仲間と協力することの大切さ等、多くの学びを得たようです。

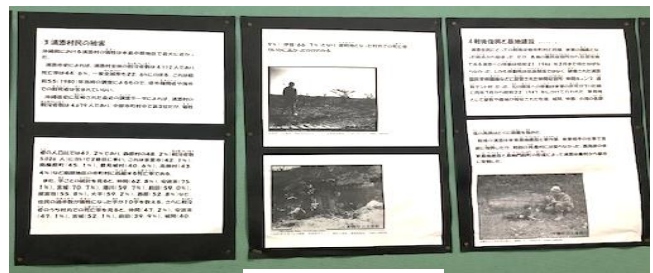
子供達から、「アドベンチャーウォークで友達に励まされ、一緒にゴールができて、協力することがどれだけ大切かがわかった」「カレーづくりの大変さを実感した。家でも手伝いたい」「友達のよさをたくさん見つけられた体験学習だった」等の感想がありました。

平和旬間の取組

6月9日～6月20日まで、「平和旬間」として、沖縄戦についての図書の紹介や戦争パネル展、平和集会等の取組みを行いました。色々な取組を通して、子供達は、沖縄戦と平和について、たくさん学ぶことができたようです。



図書の紹介



戦争パネル



講演会の様子

「平和集会」

6月19日の平和集会では、ナラティブ株式会社の演劇制作者である永田健作氏を講師にお招きし、平和集会を行いました。永田氏は、「『みんな仲良く』することはかんたんではないけれど～ぼくが平和劇で学んだこと～」という演題でお話しをされ、「戦争が悪いとわかっているのに人はなぜ戦争を繰り返してしまうのか、なぜ人は争うのか」、「戦争が起きないためにできることはなにか」について、お話ししてくださいました。



各学年からの平和宣言、平和の歌

永田さんの話にじっくりと耳を傾ける子供達の姿がたくさん見られ、「戦争と平和」について改めて考えることができた貴重な時間となりました。今後、子供達が、学校生活や家族生活等、色々な場面で出会う周りの人との関わり方を意識しながら自分たちにできることは何かを考え、行動に移していけることを期待しています。

～平和集会での講演を聞いて～ 子供達の感想

😊 1年 つは るいな

へいわってそんなにたいせつなんだ。けんかをしなければいいんだ。なかよくすることはむづかしいけど、エンパシーやシンパシーもたいせつなんだ。せんそうって、とてもかなしくなるんだ。かなしいこともくるしいこともあるけど、へいわになれば、きもちもほっとするんだ。ともだちどうしけんかするけど、すぐなかなおきすれば、せんそうはおきないんだ。おきなわとけんかしなければいいのに。せんそうはいやだし、ともだちといっしょにあそびたいけど、せんそうがおきていのちをなくしてるひともいるし、いっしょうけんめいたたかっているひともいる。

😊 2年 みやぎ あまね

せんそうは、とてもこわいということがわかりました。あいての気持ちをかんがえる（エンパシー）ことがたいせつということをはじめて知りました。びんぼうになるとあらそいがおおくなるということをはじめて知りました。あい手の気持ちをたいせつにするのが、とっても大せつということをはじめて知りました。いろいろなことを学べてとってもうれしかったです。あいての気持ちをたいせつにすることをがんばっていきたいです。

😊 3年 糸数 はなよ

わたしは、永田さんのお話を聴いてわかった事は、どりよくすれば答えはかならず見つかるということ、エンパシーは、だれかが泣いたらいっしょに泣いてあげることだけど、シンパシーは、どうしてないのかを聞くことです。きくさん（永田さんが舞台劇をするきっかけとなった方）のお話を聞くと、せんそうが使命で、はっとおどろきました。せんそうは人の命をうばってしまうとてもこわいものです。

😊 4年 上里 なお

今日、永田健作さんの話を聞いて学んだことは、せんそうは、心がまずしくなるとおこるということです。そういうことがおこらないように、エンパシー（相手の大切にしていることをわかってあげること）と、シンパシー（一緒にやってあげること）を考えて、せんそうがおこらないようにしたいです。もし、友達とかがかなしくなっていたら、ほめたり、うれしいこととかを言ってマイナス発言をしないとわかりました。これからは、相手の気持ちを考えていきたいです。もう、せんそうは、おこってほしくないと思いました。

😊 5年 波平 エレナ

私は、平和集会を終えて、今私がいるのも、命のバトンだと思いました。なぜなら、戦争というものは、国と国のけんか。何も罪のない人々もいるのに、この地球上の戦争でもう10億人以上、数えきれない人の命がうばわれている。そこで、私は、永田健作さんは、本当にすばらしいなと思いました。戦争体験者14名に戦争の悲しさなどを聞いて、「命のバトン」をつなげていこうとしている。そして、戦争はわすれてはならない大きな大きなけんかだと私たちに教えてくれました。私も、友達を大切にするなど、一人一人が命どう宝なので、私も、おばあちゃんになったら、命のバトンをわたして、今からの未来を戦争のない世の中にしていきたいです。私は命を大事にして精一杯生きていきます。

😊 6年 大田 かほ

私は、今日の平和集会で、戦争を生き抜いたきくさんが「私は簡単に死ねないの。もし、私が亡くなったら、戦争で亡くなってしまった友達のがんばった証が消えるようなものなの」と、言っていたと聞いて、凄く心が動かされました。私は、戦争で生き残った人は、ラッキーだな、悔いも無く、楽に天国に行けるなと思ったら、現実には、そんな簡単なものじゃなくて、この話を聞いて、もしかしたら、逆に自分だけ生き残った罪悪感があるのかもという気持ちを学びました。

6年 「前田高地」での平和学習

6月4日、6年生による、前田高地での平和学習が行われました。

「前田の戦い」について、現地のガイドさんより説明を受け、子供達は、教科書や資料などでは分からなかった新たな学びを得たようです。

自分の住んでいる地域で起こっていた沖縄戦について知ること、平和を守り続けること、命の大切さなどについての思いをさらに強くすることができたことと思います。

